

第26回（2023年）まちづくり・都市デザイン競技 結果概要

主催：公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

後援：国土交通省、土浦市

事務局：公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

趣旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。

現在の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されています。

こうしたまちづくりの課題を踏まえ、本「まちづくり・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成10年度より毎年実施しており、今年度で第26回目を数えます。

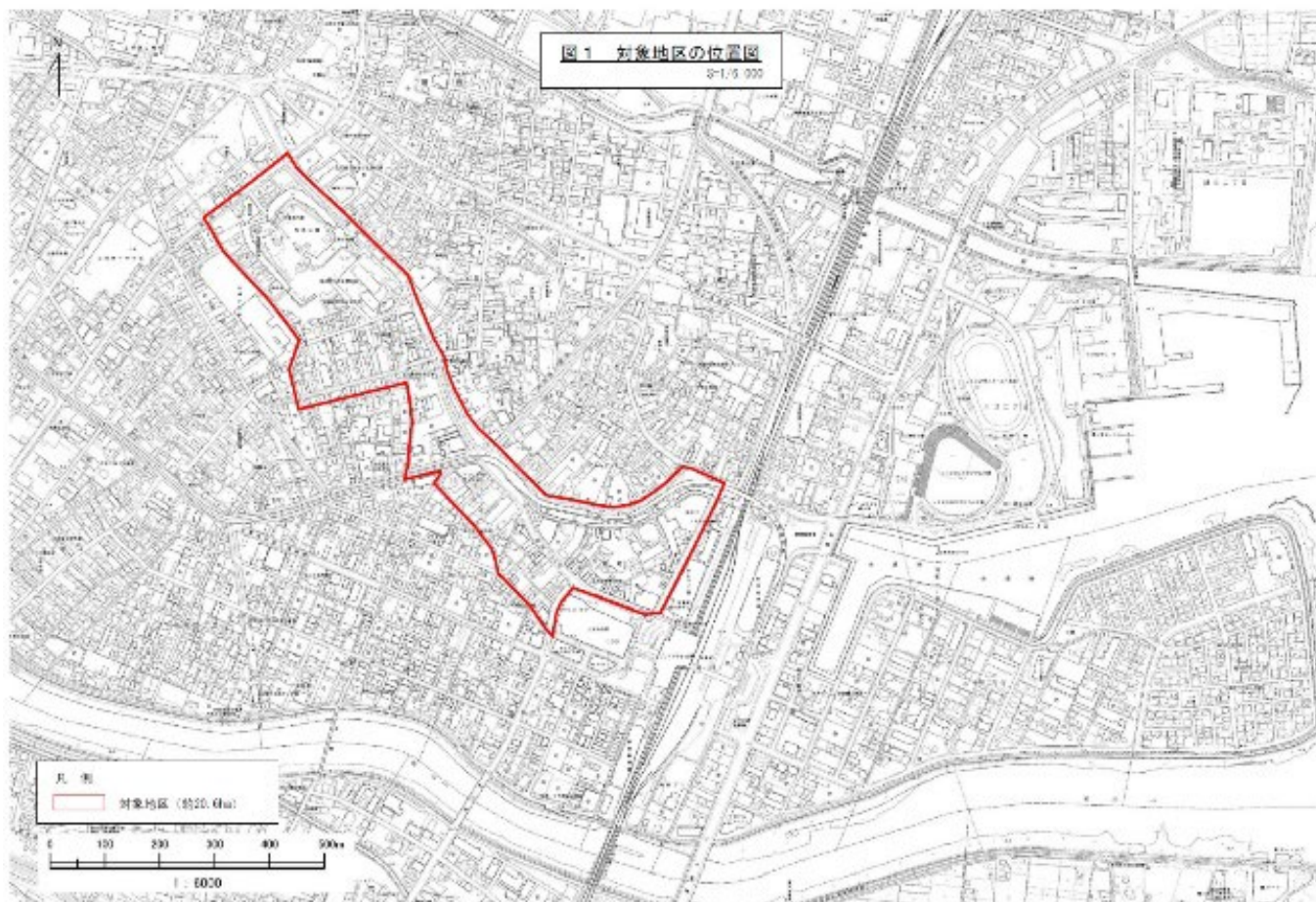
対象地区

茨城県土浦市は、東に日本第二の湖面積を有する霞ヶ浦、西に筑波山麓を臨む、水と緑に恵まれた歴史と伝統のある茨城県南部の中核都市です。位置は東京から60km圏内、茨城空港から約20km、成田国際空港から約40kmであり、筑波研究学園都市に隣接するなど、地理的条件に恵まれています。

また、市南西から北東に向かって、常磐自動車道、国道6号及びJR常磐線の基幹的な交通網が並行して整備されており、市内には、常磐自動車道土浦北IC及び桜土浦IC並びにJR土浦駅、荒川沖駅及び神立駅が整備されています。

JR土浦駅周辺の中心市街地地区は、市庁舎の駅前移転や再開発事業による新図書館・市民ギャラリーの整備等、駅前への都市機能の集約が進み、また、ナショナルサイクルルートに指定されたつくば霞ヶ浦りんりんロードの結節点という立地を活かしたサイクリング拠点施設の整備等により、歩行者交通量や観光施設利用者数の増加が見られます。

今回の対象となる地区は、中心市街地活性化基本計画において、JR土浦駅前及び霞ヶ浦沿岸と土浦城址である亀城公園との回遊軸に位置付けられている地区であり、居住人口や交流人口の増加を図る「土浦駅前通り周辺地区」（約20.6ha）とします。



募集内容 ※ 募集要領（令和5年10月作成）からの抜粋

当市は、中心市街地活性化基本計画において、地区の特性に応じたゾーニングにより土地利用方針を設定し、中心市街地の活性化に取り組んでいます。これまでJR土浦駅周辺の「輝・にぎわいゾーン」においては一定のにぎわいが創出されているものの、亀城公園周辺の「趣・おもてなしゾーン」への波及が課題となっています。

本競技では、茨城県のTX延伸構想及びカーボンニュートラルに係る政府目標等を踏まえた2050年を見据え、(1) 将来像や都市デザインのコンセプトについて、(2) (1)の将来像・都市デザインのコンセプトを実現するための機能の整備・活用のアイデア、都市のデザイン、整備手法について、提案を求めました。

(1) 対象地区全体の将来像や都市デザインのコンセプト、整備イメージ

第二期中心市街地活性化基本計画及び本年度策定を進めている第三期中心市街地活性化基本計画案を参考にしながら、同計画において回遊軸に位置付けられている対象地区全体が中心市街地において果たす役割や将来像、対象地区全体のまちづくりを進めていく上での都市デザインのコンセプト、整備のイメージを提案してください。

(2) 対象地区に必要と考えられる機能の整備・活用のアイデア及び整備手法と回遊性の向上

(1)で提案する、対象地区の将来像、都市デザインのコンセプト、整備イメージを踏まえ、対象地区に必要と考えられる具体的な機能について、マネジメントの観点も考慮しつつ、整備・活用のアイデア、都市デザイン、整備手法を提案してください。

なお、提案においては、JR土浦駅周辺やつくば霞ヶ浦りんりんロードへの来街者を対象地区に誘導し、対象地区内のにぎわい創出につなげていく、回遊性の向上のためのコンセプトが重要であると考えていることから、以下の3点の観点を考慮してください。

- ① 多様なユーザーの居心地の良さに着目した公共空間デザイン
- ② 歩行者を中心とした公共空間の創出
- ③ そこにとどまりたくなくなるような開かれた空間デザイン

応募図書

上記の募集内容に即して、対象地区の整備構想、主要な提案空間のデザインイメージ、実現化方策等を表現したA2サイズのパネル2枚の提出を求めました。

スケジュール

■応募登録期間

令和5年10月2日（月）～令和6年2月20日（火）

■現地説明会

令和5年11月6日（月）14:00～15:00

■質疑受付期間

令和5年11月6日（月）～11月13日（月）

■応募図書提出締切

令和6年3月5日（火）17時必着

■審査委員会

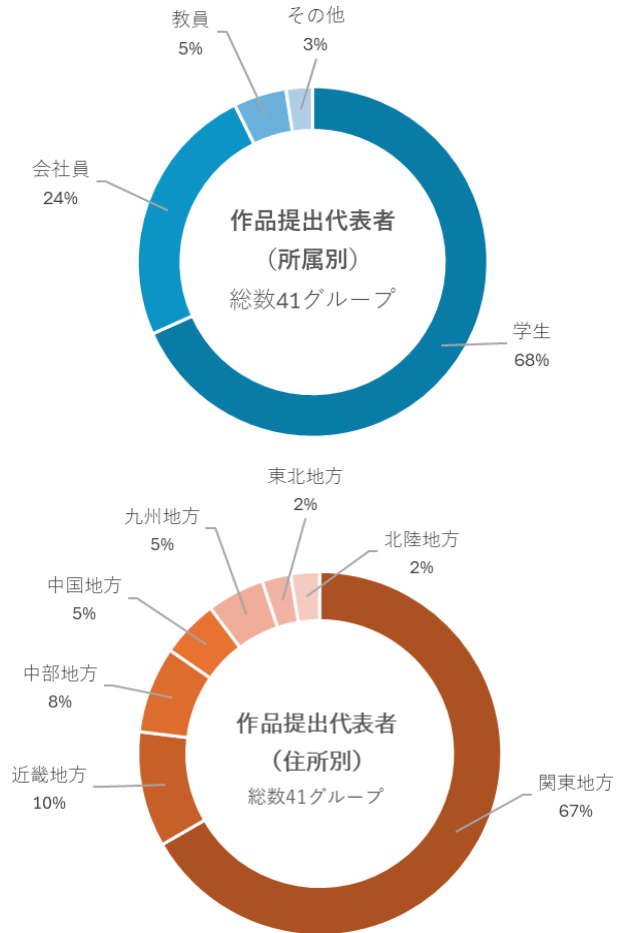
令和6年3月15日（金）

■表彰

令和6年6月

応募件数・応募者の属性

事前の応募登録数が60グループあり、最終的に41作品が提出されました（作品提出代表者の属性は円グラフを参照）。



審査委員会及び結果

1. 審査委員会

[委員長]

西村幸夫 國學院大學教授、東京大学名誉教授

[委員]

石川幹子 中央大学研究開発機構 機構教授、東京大学名誉教授

伊藤香織 東京理科大学教授

岸井隆幸 (公財)都市づくりパブリックデザインセンター 理事長、(一財)計量計画研究所代表理事

高見公雄 法政大学教授

筒井祐治 国土交通省市街地整備課長

(代理出席：地下 調 同課企画専門官)

安藤 真理子 土浦市長

(順不同、敬称略、令和6年3月時点)

2. 審査結果

審査委員会での審査の結果、下記の方々の作品が選定されました。※土浦市長特別賞は土浦市により選定

国土交通大臣賞 …賞状及び賞金 50 万円

「湧きあがり、うるおう土浦」

石田 武／半澤 武夫／野島 僚子／前山 倫子／
渡辺 優也／鈴木 茜／唐木 美咲／堤 慶介／
林 真侑子／相川 文成 [大成建設株式会社]

まちづくり・都市デザイン競技審査委員会賞

…賞状及び賞金 12 万円

「ポスト・シュリンキングシティにおけるインフラ空間の
リ・デザイン～インフラストックを活用した重層的な土浦カ
ルチャーの創造と継承～」

筈谷 友紀子／坂井 信行／山崎 将也／山本 貴子／
橋本 晋輔／小宮 伊織／宮 英理子／石川 俊博 [株式会社
地域計画建築研究所]
酒見 知里／益戸 亮平／宮川 武大 [株式会社よかネット]

(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞

…賞状及び賞金 5 万円

「みちくさつちうら

～未知を掻き立て、発見や気づきのある体験に出会うまち～」
中本 拓也／前田 旭陽／後山 瑛美／白井 颯人／
成田 知里 [清水建設株式会社]

奨励賞 (2 点) …賞状及び賞金 3 万円

「つちうら・コウテン・デザイン」

佐野 千優 [明治大学理工学研究科]

「つちうらぼかぼか

－都市のコリをほぐし、巡りを整えるデザイナー－

上林 就 [株式会社上條・福島都市設計事務所]

網倉 朔太郎 [株式会社日建設計]

梶本 正紘 [野村総合研究所]

鈴木 優里 [株式会社イー・エー・ユー]

中島 深太郎 [株式会社上條・福島都市設計事務所]

土浦市長特別賞 …賞状及び記念品

「滲彩 (シェンツァイ) 土浦」

山本 百花／池田 実咲／鶴田 帆夏／林 拓未／保坂 怜
佳／三村 彩／李 駿聡 [工学院大学]

総評

町の基本的な課題を素直に捉え、的を絞って対応策を提案してくるといった案は多くはなかった。総花的でもっともらしい提案をしても街は変わらない。よりの的を絞った戦略的な提案があれば良いと感じた。

大臣賞と審査委員会賞がいずれも川口川の再生をテーマとして提案しており、時代の流れを感じる。いずれの提案もミクロからマクロまで過去から現代までに満遍なく目配りをしており、精度の高さを実感した。

悠大な霞ヶ浦を擁し、亀城公園、水運で栄えた街並みそして近代遺産であるショッピングモールと歴史の凝縮した稀有なまちであると、深く敬意を表する。まちの未来に対し、真摯な問いかけをし、チャレンジした作品が多かった。都市デザインという長期を見すえた視点からは、国土交通大臣賞作品は「まもり再生していくインフラとは何か」という原点を提案したもので、まちづくり・都市デザイン審査会賞は、それを支える人のアクティビティのきめ細やかな提案を行っている内容。未来の土浦に対して、すぐれた提案を選出することができ、これにまさる喜びはない審査会となった。

様々な空間的特徴をもつ対象地ならではの多彩な提案がみられた。新しい時代の価値観を取り入れるものもあれば、古いストックに光をあてようとする内容まで様々であり、本コンペの奥行を感じさせるものが多かった。

入賞作品の概要

入賞作品の概要・講評は次頁の通りです。

(公財)都市づくりパブリックデザインセンターHP でも詳細をご覧ください。

(<https://www.udc.or.jp>)